



御手鑑

3906
76



子6
3906



四海浪うこす時出ふ人の心業おれ奇れ
 道甚盡めで鳥の泣こす子やうきと賊と
 目よれゆ成よりこころじろぬと守武自皇帝
 御震業と始終は此は年と切りて
 伐これ移年多しは事と共年といつ事
 分の心知こころ吉田お好敷山の顔とん
 日暮こわこころす心のせういさわては
 又よく知ふ人の稀也あふふは居居士
 古年とり見方みるね本と鳥丸大綱をさる
 穿何よまを年多人の面のこころあて
 似く似る物ありしう好とん知く心を



聖武天皇

其母駕而不用之便問之曰汝
前來時被母教勅好衣美食曰
照明鏡其事云何御可說之兒

光明皇后

讀誦方等思大垂義念力強故得見我身足
多寶佛塔十方分身無量諸佛普賢菩薩文
殊師利菩薩藥王菩薩藥上菩薩恭敬法故

聖德太子

道 七 寶 雜 色 樹 常 有 華
萬 寶 彼 國 洪 善 摧 忘 念

後鳥羽院

海邊乃露のいふさうのうらまひ

家塔下

とわさくさかたし
もふさきまふさく

后深草院

あなまの
志のうらまひ

龜山院

あなまのうらまひ

今もさあ
まらぬ

誘人あま

ふつそてのうらまひ

げさくまのうらまひ

枝さくまのうらまひ

伏見院

あり何あはれひて

あはれやうらまひ

あはれやうらまひ

あはれやうらまひ

後伏見院

新津國澤良直村号法馬事

應永七年四月廿日 兼

右井三位

勝定院義持 七代民衆

久我殿通具

奉法皇御院勅新古今撰者内也

同通親

昔々ともおつらきとものおれ
初めしとまふらうらうら
花乃乃左右侍曾院
おびて申すおれこれ

初疎後思意とつらうら
とまふ院の御政

つらうらとまふらうら
おれこれとまふらうら

大炊御門冬忠

一言見形父也冬忠見
今出河殿公頭

まらみらうら
乃まらうら
ひら
ん

本儀並に下付
一より御
おそ

月露寺殿資經

長月の在明の月とらうとらうの
在明の月とまらうとらうの

長月の在明の月とらうとらうの
上在明の月とらうとらうの
下在明の月とらうとらうの

日野殿後元

あやめこの月のわや
日野殿はあやめをせ給てまらうの
とらうとらうとらうとらうの
乃とらうとらうとらう

一葉清經

同資廣

路若草
あやめこの月のわや
日野殿はあやめをせ給てまらうの
とらうとらうとらうとらうの
乃とらうとらうとらう

万里小路大納言宣房 友房父太平記入

兩院三條殿實經

善導菩薩道不誑世間法如蓮華在彼世間

春月

ついでとらうとらうのわや
まらうとらうとらうのわや

待花

まらうとらうとらうのわや
まらうとらうとらうのわや

同實經

げんたふふや
まらうとらうとらうのわや
まらうとらうとらうのわや

一葉清經

一葉清經

一葉清經

後忠

内裏秋合 寛和元年八月十日
秋人 御 秋也 馬

寛和元年八月十日にちうにありよらて
しを給て佐人あうきしを給て
秋合を給給はうらまに佐平将也
きりて給むつとわらむて

源明賢明

やうなまあふやしらをうめつことよめ
おま計いはいしれきりなわ
かたしあむねや

奉後月院和子戒集撰
後感

二京後黄門
定感

奉後鳥羽院和子今撰者内也
奉後攝州院和子判和撰 撰者

いふこと
善法法師の伊豆のくまのきりなわ
わらわらあひらと御人限あせのり
あむねのきりなわ
あむねのきりなわ
あむねのきりなわ

奔蓮法師

中納言家持

いふこと
あむねのきりなわ
あむねのきりなわ
あむねのきりなわ

皇嘉門院四條局阿佛

あまのうらをりよまをん
むす 九河内をね
い川中をさし川にさるくよあけねあ
い川に結るるううく物集

中納言家頼

冷泉殿元祖為相

さくされさうわなればさうさも乃
むら乃かもしされさうまわ
とたま山をれ家より心をとけ

入道三平親之権助

同為秀

さうさしやあさういせうさうさ
はさうさしやあさういせうさうさ

常野高在

さうさしやあさういせうさうさ
はさうさしやあさういせうさうさ

同二條家為氏

奉 皇嘉門院初續拾遺撰ス

同慶輔

さうさしやあさういせうさうさ
はさうさしやあさういせうさうさ

平忠保

一品康子内款一重裳手持りつよ

公忠朝に

みれ人乃いりうとたまよふんはせ乃
せれうときみなをいのりけけ

同定為法宗

さうさしやあさういせうさうさ
はさうさしやあさういせうさうさ

如願法師

さうさしやあさういせうさうさ
はさうさしやあさういせうさうさ

同為世

奉 後三條院沖時初撰後三條院
沖時撰七載後醍醐天皇沖時續撰
勅西三集撰之

江州海津上尾山天神宮遺物之紺紙金泥之法華十有二部并心經阿彌陀經也

妙法蓮華經序品第一

廿官家

如是我聞一時佛住王舍城耆闍崛山中與
大比丘眾萬二千人俱皆是阿羅漢諸漏已

摩訶般若波羅蜜多心經

觀自在菩薩行深般若波羅蜜多時見五

同

佛說阿彌陀經

如是我聞一時佛在舍衛國祇樹給孤園

新心經阿彌陀經筆集
廿卷より二色挿入

高辻殿長雅

平因見

其の如くは...
...の奥より...

油小路殿隆茂

穢所取言の附一も何々

識之如も何々

蓮衣も何々

至興福寺別当信長

ふと浪頂由海者

梨中綴叔しり

了

上日中如女を事

世尊寺殿伊經

山風雨時鳴風暗野亭

蘇邊遠月閑

直穉入夜催
田前順

同行能

他家三三三三

かもしかたはあやうき
ゆあらくとまうい
くうしけりしんま
とる人の出けさのら
うさしやのまらん
けおおほしつは
けりのあまうい
まにけりしんま
あまうい
あまうい

同經朝

何 再 日 一
生 西 望 是
長 襟

同定成

水 碓 半 邊 橋
羅 吟 山 月 初
昇 栲 園 樹

源重之

同行平

但家三三三三

あし乃葉よかされてすんー門のら
こやああああああああああああ
影さす つゆは
おのひあつちやうんあのよれ
行風をひららあかあわ

同行忠

玉残を 枝をよ 兼て
不主を 膝を何 伏惟

清水谷殿實秋

尋花
かすむのちれとくくたあれか
くまかきも 鶯うきく

小倉殿實名

あふにまのまをむしあううく
くくあふかへる乃をあまにそわに
いぬ應徳のそめめのとく乃方らんか月
乃とつあゆまのくちあひやうこれつこ

橋本殿公夏

友山をふ良乃

葉當よりく夕等

はまうー母梅也

いしをそれ

早松殿資高

そらりーそふー信毛

かーとく じまか

白身山をうさる じまか

六條殿有忠

東二条院此御領と云

前二子正月廿八日

いふさま

はいつれと云ふ

老

れと云ふて女のつとまれば

宗孝親王

符瑞圖云鳥者名曰龜

見山海一曰其色青赤處而方

此中事 女御芳子

あきちまらとの雲は

運宮善成

造州初人素云

一云可有沙竿

傾は一人を柳

修也

石臼十石

多量少火灰

勘解路殿尊詮

トア案一惠

カシタシロシタシロシタシロ
カシタシロシタシロシタシロ
カシタシロシタシロシタシロ
カシタシロシタシロシタシロ
カシタシロシタシロシタシロ

春日家集

秋のついでにやまのふし
のふしをいふ

津守因冬

七夕よよめ 修理太夫願事
あまのほろよろいふよわこ
けいこころとくしむのふしをいふ
板のこころに船のふしをいふ
さうよけけけけのふしをいふ

同 四幽夏

百首并中 小普門の深淵の海心
ふしをいふ 崇徳院御歌
ちいをえちひるけいこころ
つゆもるのまをいふ

頼業のうた 大原三殿内
御一巻

うらひねのふしをいふ
ゆきをいふ
いりてをいふ

鳥下海島 泰苑 深淵の海心
今年異例 腸先 御歌 崇徳院御歌
来古 感来 聴 不 復 言 悔 後 之 事
なほ 万 事 の こ け の こ 事 だ た う 事 だ
そ だ だ だ だ だ だ だ だ だ だ

和漢朗詠集 作者
四條大納言公任

傳教大師

勢之切

所作故非正起故所以者何以一切
識住者起者不可得故舍利子乃至
間乘本性不生一切獨覺乘大乘本

智澄大師

三并寺 清大德

性空與佛十力四无所畏四无礙解大慈大
悲大喜大捨十八不共法无二无二分故

慈惠僧正

已告諸苾芻前是創制此是隨開若
有難緣不須囑授是故我今為諸苾

惠僧

知節度行來无忌其中持戒比丘我完具者

慈覺大師

我所見我之所念人山中知我不

親鸞上人

光雲无碍如虚空

一切ノ有礙ニサワリテ

光澤カクシク又モクナキ

難思議ヲ 歸命言

代目御文ノ作者
蓮聖人

南無阿弥陀仏

慈鎮齋

ういふはつとものういふはつと
あつたはつとものういふはつと
女のういふはつとものういふはつと
ういふはつとものういふはつと
ういふはつとものういふはつと

奉記庭訓之作者

玄惠法中

自問何時恨曉鐘銀釵不勅止倚黃龍
尋常一擲長所月有兮然心便不同

二和注親王受勅

夕つあつたのういふはつと

赤名百とてあつたのういふはつと

いふはつとものういふはつと

業宗あつたのういふはつと

石寺座主

果寺

音龍院殿慈道

今年と申懐一付はとと枝の
意疎錫丹前者湯報はは難
事と懐恐懐

卯月日 権律師

音蓮院殿尊道

望秋新月夜
思詩海雲
風雲又々情

同道園

露松得林之枯槎
試法無河若法水

仁和寺殿寺竟

所心しねるふも例之
去布リふ心回字入
のり子細事也身心
山月ナラニ 守書

同弘融

實相院増運

光朝室の御書にあり佛尊の御心
ころちあつちの御心
大僧正行基の御心
まことあつちの御心

古今歌括書

春

うしはらに雲染しかり下せ
あつちの御心
あつちの御心
あつちの御心

理多院書

源家千御片
あつちの御心
あつちの御心
あつちの御心
あつちの御心

醍醐成貞

いかにふあはれよふは
いとよははれよ
らんしんてん

きりきり
江藤盛

梅尾山
明惠上人

兼三彦得行三社
剛若長俊
剛雅法皇太子有二三彦孫
卷可有二三彦也
剛房誰人語三彦大彦孫即
卷の四六彦孫孫也
はる梅中房人矣三彦の人はと
付也

文覺上人

しきの清水教二ま
せらまむりんくまの
いのりえあすまりの
いゆるの物きたすま
ゆけらゆ

深味

三彦

笠置宮前山解脫上人

耶麻細の世滅うなり
向末末の既祇乞了夏陀真
亭文
付ノ向ノ意達摩禪本直
カハリ

阿比陀後度

奉供

大壇供の箇度

道摩供の箇度

諸神任の箇度

奉念

併眼真々通

去日真々通

南都大法院

慈信

安住寺經覽

一志他用即地用一重立他用結即地用
節一重比二重の百遠を酒依同前
力即結去方二押率市一而遠に結遠

安住寺
信覽信部

うつろへる花をなするあり
みづね
花をなする人よりうりつるもはたし人より乳
題しらす
うくひすのなすの人はまきてを世にうりつるも風うりつる
吹風をなすてうりつる人も我やを世にうりつるも
曲待 逢子朝長
ちり花乃をふりしとては物なす我くひすまもや

未暇法師

茶のちりてのちり
折海法師
難波志あし伊勢のけり結
あしあし解をたす
なすは所
凡る用さす

三氏作者
蕭空

肥後守蒙 啓石
先家
先繼
先春

大德寺一休和尚

山田乃心居士

木心居士

乃心居士

一休和尚
墨耕

同實傳和尚

這風影轉活梯輪
三身三玄絕此倫
斷際正宗徧天下
還他闡五逆雷人

亥傳宗真拜讀

七寶禱年三轉輪
多年東海袂崑崙
天荒地老無多眼
弟何如所獲黑玄
窟堂塲 空老

玉冲

古岳和尚之書

是真是俗七縱
八橫若問端的
久雨不晴

前大德

大林叟宗套

同江隱智

天澤際咸淳旨禪欺世以麻粟微禹
當年魚我民臨濟山傳真大法持正
業城作梁津寓公不睡為林地

洛陽城之韻人

丁卯年修需法禪

之曰了圓

前大德古岳叟宗套

畫千三玄之室

同春屋國師

同一陳齋

此字意... 亦同... 宜... 古... 相... 山... 第... 海... 程... 出... 用...

同 玉室齋

十力同東舍
簡上學世者
此是選佛場
公忠及第歸

晴眠子卷言

同 東海宗朝

同心溪

今日親師
孔地時定作
風凰悅
東海宗朝

氣南... 引法... 崇林閣道人... 心... 事...

殿下お身不憐以漸音一音部
玉韻清絶不混塵俗而已音師古
土蒙音禪佛唱和音金亦刻類

心子後也

金部新母經
能去古音聲部
寫其黃道空
而得淨種時
照教能灯冷
淨更清鏡烟

景虎足契

左馬廐寺虎園和尚

同其自成行
和尚以此年
かゝんこし
たゝをいん
たりしと見

白鶴峰 經居最新入門末の留春

倫藏之

同龍吟稿

今夜蓮花雨
為人睡好夢
三秋芳店月
有友多相思

建寧古洞智

嵩山不象云元行勝

高士在須者又

堆裡睡眠

蒼色堆裡坐卧

玉厨古洞更云々

夫龍寺用山

夢窓國師

又字子...
わの...
ト...
...
...

中正藏主

移錦石通三

月宿台香積寺
石屏

心印佛便作尋夢...
久立家悉父惟珍重

妙法蓮華經序品第一

如是我聞一時佛住王舍城耆闍崛山中與
大比丘眾萬二千五百俱皆是阿羅漢諸漏已

小野皇

江別海津上尾山天神宮寶篋
金鉢砂子兩箇...法華經者

佛說觀音賢菩薩行法經

如是我聞一時佛在毗舍離國大林精舍重

一那之姑...
華年...
...

同道風

於信修果請等
視視別

香誠佐理

人——尔更日
河存為以多結轉
台復園之在事一未均
若系

世了寺及行感

夜三子又三華內

皆是又殊寂化

一切在界生

中石見字及

細
楚

源位賴政

五種諱丁下身切係未七未見陸
二字六丁讀丸脫狀九字所可資
為秘安故包一品之內置別對自
交三丁成

致了——
石清有持之
代——
元威
家

高野

九信

南道寸

びうおとこらぬかゆりてうれ業
神うれ置かきううきえありにいさ
そ乃ゆきあつとたき先つるあけの舞
見ち乃とれ思やうすの誰か
こをせとあゆ 我らうたなま

まらとてきつらうかにまの心まをのあきなるまゆい
秋ら日よるあゆう
秋ら日よるあゆう
侍後乳母

本尊義仲内太皇太后

起元上正寺善提世諸薩行一一於彼彼諸善

蜻蛉元

誦法苑經二十八品和歌

序品

宮道親元

種るのこの葉と息とよすふて

東野初末子

索淵

鳥忍とていりしあのを思きかおほたかな
まはれし如人思しを日たりにとひはれ
あまのまを
名小おつしと事とをまやあり
日と息ふ人えけりや水や水

まき
宇劬

存草ふ衣けすむあさつあり
ぬれてれらちあらひわし
仁和のそと見こりたり海
とまのありの身をさし出せ見とむとてお
りいあつらみらなり遍昭うけ
の家なりやうりそとらりたる時
庭と秋れおきりつらりておほん
物とりのついでたりとてまきくぬ
つらり
備西遍昭

初春霞

一あまのくつむ入にれむはゆわそや善乃先うそ
二
三

昆虫廣

虫ののやひりや月の
つとぬん日ひ乃神り
うらみりしんそ
やいり新れくゆり
より人みるまら日とわ
とり

后花園院

冬之屋

うき世にうき世の屋にうき世の
雲そらにうき世の雲のうき世

同内尚内侍

とらんすくしの世にうき世の
みられぬく世にうき世の

同内尚内侍

淡雪

ゆえくわかに根の雪のうき
計きもぬりし世にうき世の雪

同内尚内侍

系ぎりなき世にうき世の
ふりてぬりし世にうき世の

後柏原院

春の世

はるの世にうき世の
はるの世にうき世の

後奈良院

月下舞

とねの世にうき世の
とねの世にうき世の

正親町院

餘花

なまの世にうき世の
なまの世にうき世の

陽之元院

祝言

春の代にうき世の
春の代にうき世の

同

仕事 ことわざのしらべ
夢 ことわざのしらべ

九條殿道通

朝陽鷹

あさひのたかね
あさひのたかね

同忠榮

柳 ことわざのしらべ
かきくさのせりあつた

同

霧中花

霧の中の花を
かきくさのせりあつた

同

夜時香

夜の香
かきくさのせりあつた

二條殿

嵐

嵐 ことわざのしらべ
木のこゝろの秋を

同

あつた
かきくさのせりあつた

同

山雨

山雨 ことわざのしらべ
かきくさのせりあつた

同

赤かたふも形枝の苗をく
まくのさけをきかてまじき事

同

夏月 本れりるる影そまらるまじく
つらとましくなれぬ月夜

一條殿

秋露 一をへは祢をを解きてを花うめん
水うらのはらけきこのうき露

同

山家 山家 山家 山家 山家
おろききは山の山海しわら
おろききは山の山海しわら

同

懐旧 一すらふあかぬけのころ人よ
おのころとて海よとて

云方

尊氏將軍

よこらるるをよこらるる
よこらるるをよこらるる

同

慈照院号市山殿ト頭後寺門院

契意 ちえい ちえい ちえい ちえい
ちえい ちえい ちえい ちえい

同

常徳院

かすもを起しつてをいせ
いづくにをききぬぬ月義

同

義經沖喜

名雨慈

日成つゝ神の護と世に何を
以ては海神宮の祝り為

同 大知院殿

舟に乘りて此松乃平地と自や

同 法信院殿

しつゝかゝるかの心なるらん親

月見花らさるやと記し梅鹿乃

く新林と此書よしの夢 義經

東山後月明

曉露

清いれと神光さし其神のふ
月を宿り此露乃つるき 抄

同

奇波志

かゝる奇きうもあつたや志は遠
るかゝる奇きあつたや志は遠

花山院 平安納善教 録乃云

冬

わつと妻に孫あめのをせむしあ
ごつと人し神あつたや志は遠

同

ふらつる奇きと云乃つと神
思へるはふねじやふ志 義經

同

家推 改名

別名

美山てしをせむしあつたやと志
こゝに又ねそつれつる志

お六
あのおはまのひらり人あは
くは

同 具家

おきよまはしあふしきにならむ
ふこよしあむ 挨拶

西園寺殿

お
おのまにうきまきあつりの
おれをまひこれおれおれおれ

同 實晴

こらほかに物かぬまよおれ
おれおれおれおれおれおれ

徳寺殿

頌の廣

鷺
河風もえを吹とめわたり
足のまり衣雷とみてはく意浮

同

頌の并 雅賢

お舟意
波乃うぬふうひせばあむ終や
あう終とそくまじりかこそあむ羅

同

池藤
吹風あのとけとあむ池水乃
みふれあむらの花乃あむ信

同

庶流之解

文藻
おのまにうきまきあつりの
おれをまひこれおれおれおれ

葵

あけふのさくらんぼの如くは
二葉は多きさくらんぼの如くは

同

長柄橋

りかへてはつらつら
りかへてはつらつら

同

神宮

あけふのさくらんぼの如くは
あけふのさくらんぼの如くは

同

夏草

花の心は
花の心は

今川殿

遅日

くさの日のあかりも
くさの日のあかりも

同

海客

文成の海客
文成の海客

四條殿

逢不

會恋

あけふのさくらんぼの如くは
あけふのさくらんぼの如くは

同

寒月

あけふのさくらんぼの如くは
あけふのさくらんぼの如くは

同

五福

かかろもよ思ひせつとらぬ
けしきのの打りせらも私

同

新渡

あかじの徳もよ
あかじの徳もよ

廣橋

新山

あかじの徳もよ
あかじの徳もよ

同

新村

あかじの徳もよ
あかじの徳もよ

同

樹

網

あかじの徳もよ
あかじの徳もよ

同

水鳥

あかじの徳もよ
あかじの徳もよ

同

松月

あかじの徳もよ
あかじの徳もよ

同

縁

あかじの徳もよ
あかじの徳もよ

竹石師

すのけのたのむさしむし
いづらうきなられ竹 道臣

風

がらうくお吹くらわ風のま
うらまふらんまきん 光豊

逢不會

い未なみあもまててひ
悪まあまがらん 慶

新対

つとらうきあもまててひ
もまらうきあもまててひ

歳暮

まらうきあもまててひ
もまらうきあもまててひ

春月

らうきあもまててひ
もまらうきあもまててひ

折梅

まらうきあもまててひ
もまらうきあもまててひ

空教風

まらうきあもまててひ
もまらうきあもまててひ

小湊山

とておぼろげなる山は小湊山
志らくしつゝの松がけはおぼろ

可成寺名

花柳頭

ついでにみよしの花柳頭
たしよて花とよきしつゝ観衆

同 清はる

深衣萩

いづくの身は萩をひておぼろ
好くしつゝ萩は風がらるる遠空

同

多花

梅友

ちかひ乃多花と存まはれ世に
寒花の是とけけけ 元長

同

郭云頻

所をいふておぼろ 萩をいふ
多き事につゝ郭云頻 元長

同

善秋河

古田川よりおぼろ 萩をいふ
秋とよき事とよき事 元長

同 鹿流

池藤

池多ふつゝり 萩をいふ
たしよつゝり 萩をいふ 元長

同

松下

納涼

若の葉は海を吹く 萩をいふ
木は下は海を吹く 萩をいふ 元長

寒草霜

花を以て一葉をいふは色こそ
霜のよき色なる冬に寒けを頼る

同

海老松

凡かき岸の海老松の世に
立あつたはくんと伝吉の松葉

五里山友

根 後 寺 門 院

見之戀

見ると見ればあはれいかに
あはれいかにあはれいかに賢房

同

笑月

ゆく人を思はせよと又あはれや
閑より月のあはれにすき者房

同

頼 和 昌 并 兼 教

春月

春月乃月の今よはゆき初を
あはれに思はれぬかたに惟房

同

春所社

夕月夜つらあはれや本枝乃
森の心志くちあはれは頼房

同

萬葉

孫毛海ふけの女さしは萬葉子
あはれいかにあはれいかに頼房

勸 修 寺 殿

湖光

三笠の浦やあはれ山あはれあはす
あはれいかにあはれいかに頼房

夕雲雀

春にしききうはくしよ鳴いより
いふの緒とやま流も織らん終頭

定村柳

わのいもふり此をよこひり乃
あいにふもゆまやえけ尚頭

野分

野分

くく舞あもまるとみ車あはれ野分
むらもあうはれれ事非 盡

水鶴

横たす乃のいふもやと記あひ夜と
志わてあ終れ何たもらん晴在

月日由

まをいしふう志とてあふ月日
まのまゆいあうらとえ晴豊

萩風

秋のよそ又言すのそ萩の葉
月のみくはれ秋乃の言盡

芳山憲

はやもくしにわのる道一独旅
くぼり山をわりあねと経廣

雨後蟬

あうけくもあふとむらあき蟬の
くあふあけあ森の下を 經頭

同

家縁忠

清く又かきつるのこゝろ
しんじつにけしきもよきそは霜

同

氷

雪が降りてうかひく出ふは
寒くあつたやわらうらん雪

閑院三條殿

暮春

らうけいそむけの鐘の音
あつたよのちのちと梅實

同

青月雨

あましめ雪乃ちをさふ
神志けしきも月白く見

梅葉

ちりりり梅の葉の音
あつたよのちのちと梅實

同

梅の花

あつたよのちのちと梅實
あつたよのちのちと梅實

四三條殿

樵夫

薪をたたく音
あつたよのちのちと梅實

同

雪

あつたよのちのちと梅實
あつたよのちのちと梅實

同

紅葉
不夫

冬の風は紅葉を吹く代は秋の
ついでに紅葉の葉は空を舞

同

閑寂

雪の降る中にもあはれは橋の
ふもとに紅葉の葉は空を舞

同

不逢意

多岐の道に逢ふは
紅葉の葉は空を舞

正親町殿

山花

冬梅は山の下に咲く
紅葉の葉は空を舞

鷹狩

鷹の狩は紅葉の葉を
はらう

同

暮日

世をすくはぬは
紅葉の葉は空を舞

同

待月

待ちつゝ月待たず
紅葉の葉は空を舞

同

等身

身は刀の如く
紅葉の葉は空を舞

同 彦彦

澤間

澤田のうらみあはれ夕暮し

秋夕

いづれよおのれはつらき心

四辻殿

月か

千秋を月をいふはなほ

同 坐

如雲乃坐の清くしるり音

同

萩

風ゆきあはれひねるはるの葉と

わきて林は萩は静けけの音遠

同

春駒

中流激きかこよる駒の心

かたはるのたのしみは海なる遠

同

水鳥

むきくたつ羽の影もさびし水鳥

かきあつ川原乃は音乃新玉籠

同

園霧

庭の隅の園の山は霧籠く

ゆきあつ霧の下の道は云理

同

彦彦

里霧

夕光のよるをぬきよの吹かむ

あつあつとあつあつとあつあつと

同

清息

夏雲

晴るぬ日をもたつぬ水雲河

くさ乃みおきふささの穂の文書

同

夏枯
こころをえ葉のり秋の風は
冷たもりうらやまの枯 宗綱

同

鐘
羽子のうね乃り春と山はふ
るわともまればはるのまの春藤

同

秋色
煉のぬい文や春の海磯松宗房

同 宗房改ふ

庭敷冬
あまのむけ枝をこぼれは白霜の
とれをぬきうらやまの春 宗満

持明改ふ

山歌
山ふくすむ身もいまははらとせり
はらふかるとるやわらうん 基春

同

悲切恋
大さこたまきけおとさうての
志のふあまりの露や乱れん 基鏡

同

新雪
心くさぬのみらちるを新雪
木たぐみや春の松枝基春

同 基春

らと梅まるとはる初らふ
春よ歌のこころ代や春

同

一 春の海や波の春の海を
おののけりてふのうらやまの海を

同

同

春の海や波の春の海を
おののけりてふのうらやまの海を

同

同

春の海や波の春の海を
おののけりてふのうらやまの海を

同

同

春の海や波の春の海を
おののけりてふのうらやまの海を

同

同

春の海や波の春の海を
おののけりてふのうらやまの海を

同

同

春の海や波の春の海を
おののけりてふのうらやまの海を

同

中山

同

春の海や波の春の海を
おののけりてふのうらやまの海を

同

同

春の海や波の春の海を
おののけりてふのうらやまの海を

同 沖の浪元後友 類方廣

牽守

身心此にたもひはては別は路を
たうとくお終いひもわら電撃

同 乃和沙也

月乃およもけあを成ひたり
棹よりあつな運の川に舟 朝霧

同 藤谷名

若為 し女子のかけ一衣と入つるも
石衣 若木のうら若めをいふを為賢

下 乃和沙也

秋田

小野のちもあまの船のあまを
わきと木の葉もはなはし 秋葉

同

あふ ありしやあゆえんさあまの甲は
曇き あまの葉の袖とみせても 秋葉

同

霧中 あまを待つ程のあまの心衣
送日 さらりよあまの心衣のあまの心衣

同

久恋 我れうらな聖いあまの心衣
あまの心衣のあまの心衣

一條家

霧操 しろと又野原のうらな心衣
あまの心衣のあまの心衣

み葉

まぐれまゝのうら七揃りきほかす
しるあけてうらふらと

同

釋教

しるあけてうらふらと
つらふらと

同

王位君

言古くしてたん、後身才徳と
しるあけてうらふらと

同

穠祝云

行さゆれつるまゝ、後身才徳と
しるあけてうらふらと

同

初戀

あやしくもさあめらうらと
人母ゆせきうらふらと

同

新羅志

あやしくもさあめらうらと
しるあけてうらふらと

同

新羅志

あやしくもさあめらうらと
しるあけてうらふらと

怨念

あやしくもさあめらうらと
しるあけてうらふらと

同

寄末誰

あやしくもさあめらうらと
しるあけてうらふらと

同

障栲衣

夏ハたゞむしをぬくもの中に入
る多しぬくもの衣ハ了志 雅賢

同

夢原恋

月日ある海を渡る夢原
かきわたりぬむじの蘆葦

同

一夜

云々葉のころかきわたりぬむじ

大巾

くやまふふは 漢詩 千代子

同 雅賢

船中月

月みたりていふかきわたりぬむじ
そふかきわたりぬむじの蘆葦

船中

初うねりあはしてとじてる船入

りてを海あひんり末はあはれ

同

休後

世中を思ふすていふかきわたりぬむじ
かきわたりぬむじの蘆葦

元名井原 彦流

名所

いふかきわたりぬむじの蘆葦

七夕

名もきわたりぬむじの蘆葦

同 二葉斬

野徑虫

三日月あはれかきわたりぬむじ
かきわたりぬむじの蘆葦

里苜蓿

うらつ時海にのほけ枯らわ
み葉もきしるはくしの里苜蓿

鶯

いづれもは流るる鶯もまなわ
枝もよかふ音も鶯の志雅純

五上後

離菊

あき霜もよのちをよふき記くの
さきあまの心なむ乃離と 同

古後菊

枯れわたるをよふを曲ら記
すく乃らよちあはる人源頼朝

山家

あけさあけはれもひのまん松屋と
人あきけあはるのこみすの源

持衣函

取あはるに袋をよふあさ衣
まはれは里からとをさると源

中後夕 類 中後

歳暮

いづれもは流るる鶯もまなわ
枝もよかふ音も鶯の志雅純

同 也是新古今和歌集 海前西三條實隆也

あき霜もよのちをよふき記くの
さきあまの心なむ乃離と 同

同通村

秋の夜は母の高き乃
おのれはわが母

北畠殿

黄葉

秋の夜は母の高き乃
おのれはわが母

同

石瀨

おのれはわが母
おのれはわが母

白河殿

石瀨

おのれはわが母
おのれはわが母

同

雀鳴

雀鳴

おのれはわが母
おのれはわが母

同

惜別

おのれはわが母
おのれはわが母

西河殿

おのれはわが母
おのれはわが母

同

遠歸

おのれはわが母
おのれはわが母

原菜

東坊殿

穠秋乃くしの中才の菜
さくえさし 穠秋乃くろ馬岩

玉露

同

南草乃くろあけのたの
あふれお花のよき 和長

松存

同

少く者今 葉あるは
書とく梅本はあまの長

恨縁恋

か計の縁あして中絶し
心づきや人せうか 長

鷹月殿

寄雲恋

同

たふまのあつたら白雲乃
ゆあさつたあなまあ信房

あふれもあまのあけ
かろひさあつたあなまあ信房

早春

たらつるあまのきりたの
あつたあつたのあつたあ

傳法輪三條殿

時雨

又白雲乃くろあつたあ
あつたあつたあつたあ

岡 公教所記

浅 秋の、旬次を、
可く、高き、
可く、高き、

岡

上月雨 谷水、
乃、社、
乃、社、

岡

喜鳥 百子、
心、
心、

岡 三條家

枯月 枯の、
枯の、
枯の、

岡 三條家

月 月、
月、
月、

高倉

浅茅法 浅茅、
浅茅、
浅茅、

岡

晚香 晚香、
晚香、
晚香、

岡

海路 浦、
浦、
浦、

岡

意気 心跡
さとりをたよるれぬもあつて
まなかりおろそかにすけりぬ 承宣

辨由録

竹
竹りあふてまけとさ枝と中竹の
かき結成にのて成きほのか 承宣

同

園と藪
多花のさかたあけり吹ゆ
こやうにさかたあけり也 承宣

世尊寺

世尊寺
春乃蹄とさいひく草丹
と成成雲丹母まふむり行雲

何野

獨見 春月
ほりけりまを成力ひつらふ
誰よとさい 春乃平月貫

同

糸橋
しんをのあさる物よのありあて
意夕海なただけの糸の橋 公福

同

いぬはらうらけりさめとあまら河
なうらとらく入ぬる路公業

同

松
浦るみも言えとせり場風
るねく年うら任り 公業

春雪

山桜何くも七色と見えし。うれ
花らるる雪も風うめ葉

小倉友 類 為 廣

月

ゆきゆきとてはなすきいよのあき
の海さらりては月見れ 季権

栲 印 友

時雨

このあき庭は木とあはゆふり
そあそつくさし志られし人季村

平 杜 友 時 雨 廟

海はわらうとふふ人 ことごと
ほよ出らぬとわらうとわらう

園 友

霧

雲うらぬみねとてはぬる霧
わらうと霧はすきとて霧

同

藤

さびか海ねらのついでに藤
さびか色あふりまは影飛 基音

同

葛風

風はさきほらねあき葛のうれ
夕雲あきと霧ははきつ 基音

同

寄水

水はさきほらねあき葛のうれ
尺教 ねあき水をひすいさか人 基音

同

河花 氷よりあつらひしつゝいほの花はま
椿もわかよするものやま川 墨福

百七の五

長松 年久 手をうつ松乃わら松のそけいふ
ほもくわいそん若川のそろ置

竹四の五

遠夕色 ようたのこころ小涼 伴弱山
くまきり川雲乃夕々星はる後治

同

栽花 赤うめんのかの花を種とて
二葉の標ごうてける代若流

淡中五の五

夜夕 ありし元よりすくらせりそん
風城よりの中をきよはつた 後賢

同

花朝記 神のさや見むら花乃乃守
花乃あつ松梅の室のひはし 後賢

同

爰之志 あわてみし月よこふ人そと
奈我の秋をさうはらひはと高者

同

女市記 女ふめをゆ抗う野乃と見るゆ
わろしこふりしききそは女市書 景

田向名

更衣

夏衣を着るふらふらあつたきくかた好
うきまや花乃枝も彩も人重活

六修名

霜有廣
入あゆの暮砂は月やあつた霜有廣

同

若品

春曙

横雲のわくわくしつらつたれ乃
うきまや花乃枝も彩も人重活

同

仲夏序
うきまや花乃枝も彩も人重活

快見名 後崇光院貞政

在郷

業坂

梅あつたあつたあつたあ
きつたあつたあつたあ

同

後花園北院全牙

竹園鳥

うきまや花乃枝も彩も人重活
うきまや花乃枝も彩も人重活

同

様急

思ふこのしをわなむとくうきま
うきまや花乃枝も彩も人重活

同

有乳山

うきまや花乃枝も彩も人重活
うきまや花乃枝も彩も人重活

同

荒夜月

所いあふて月世のあはれ
あはれ月あはれあはれ月あはれ

同

初花

さくら花さくら花さくら花
あはれ目あはれ目あはれ目 貞康

同

唐琴

近枕

秋あくは秋あくは秋あくは
秋あくはあくはあくはあくは

同

六身腰

流すくは流すくは流すくは
流すくは流すくは流すくは

八條

恨身忘

志あはれあはれあはれあはれ
あはれあはれあはれあはれ

同

白雲のあはれあはれあはれあはれ

あはれあはれあはれあはれあはれ

五松

物のあはれあはれあはれあはれ

あはれあはれあはれあはれあはれ

同

寄草書

あはれあはれあはれあはれあはれ

遥見花

けりきり也抄りて事のたはげ
かりきり也病多し人 在敷

堀川友

夕立

夕立の雨ふるも此中晴く
河のほとりわが山は瑞の月塵

花園友

梅苑の香にうらみあはれ
よふ人持たぬ具は山は實清

七條友

嶺頭鴈

明らかりは春のつらさるる
おとつしは秋のさびしき

樋口友

古く雪

水もか人もあはれは伊は
みちもか人もあはれは伊は

同

呼子鳥

呼子鳥の山陰に呼子鳥
了の如く物松風が夜宿康

久世殿

湖月

似珠

月すあえ行は沖も旧妙に
林よる玉のさるる岸浦矣

中川殿

花似雪

句は雪の如くわがまはし
る所は花の如く志賀の心は雪

裏过及字福

よみたるをきくさうみかひ其
うみのうらなひをけり

千種殿有能

あなはれらるるあまの
あまのあまのあまの

塩中修友

あまのあまのあまのあまの
あまのあまのあまのあまの

山石舎殿

山石くまらるるあまのあまの
あまのあまのあまのあまの

山石舎殿

あまのあまのあまのあまの
あまのあまのあまのあまの

山石舎殿

あまのあまのあまのあまの
あまのあまのあまのあまの

生士官務殿

あまのあまのあまのあまの
あまのあまのあまのあまの

同

あまのあまのあまのあまの
あまのあまのあまのあまの

石下花 山さうじりてはらりに成りたり
之病くあう花もはるすも富盛ら

おつ口友

霜埋

流城

風はそ精乃ををねとありて
音りかたむらむらひの富盛春廣

同

五月

春さた月めつうて志きうん
たがらう新たのたふの春重

佐不野参頭

花浪

春さた月めつうて志きうん
たがらう新たのたふの春重

山本左兵衛

山川乃あきあせやわが形心
きつあは波の音たえまら勝志

藤河友

歳言

なはわさるるるるるるる
力いふたさささ 何れも孫 雅更

鳥井松友

冬枕

はるしくと枕の上ふかうゆき
わを寝いりこれおちるるるる

同

靴

月乃あきあせやわが形心
きつあは波の音たえまら勝志

近友友

舟波國住九歲而斬流波入漢人至初月

芳名云

春やあきか今もいふ如し
子に流るるあはれもよき若衆

近事友内近友此存了

連率

海も流るる元まや那もいふ如し
二那もかたもいふ如し

照射

二那もかたもいふ如し

同

水少流るる

恨絶意

いふ如し
志穂後園

同

同

葛蒲

いふ如し
いふ如し

同

同

梅風

いふ如し
いふ如し

三條殿内

官務

鎮 水鳥井及狹廂

野旅

いふ如し
いふ如し

平四友

水鳥井及狹廂

首夏風

いふ如し
いふ如し

速水純如身

干鳥

いふ如し
いふ如し

まよやまよのくはれす貴
あつていふあまれ

同

卯丸 雷まはさこわやせじらふをえ
いせ 死よりまはか建の卯丸を意

同

名所論 名のえあさたけいさくしゆき
そめりの坂つられ実と糸 昔傳

同

浦松 神堂元面とては作乃志の道
一ふとせせんつあし崎のまき尊鎮

天

名取濱 ありまろしつらふさけせん
浪の河津の溪のまか地尊朝

枕草子の文

近窓 ちち柳かたふらつてつらふ
ななけあひあま帯れあひの意

同

夏草蔭 ありかたみ ちちあまの思節
かあしつらふあまの意

同精庵

梅花 浪のけいけあまの思節
ちちあまの思節

同

夜旅

夢の重なるのあしれり枕
多と云やこのさうなる寂胤

助法住方

閑静云

まじりて約らういそ何なる
さかきひる花をぬかり覺胤

同

松雪

多へわらみさうは松枝をて
はの雪もつら成り常胤

同 堯彦

花匂

しづめふらぬこの匂はな
花のさうわちかきしづめ

大寺寺友

庭苔

松の根のつらふの苔は
すめり刀人さうしづめをう義後

同

春雑

香はらふしきひらうとを
聖人志ありかき雑が性業

同

里梅

鶯もさうひとあめり山
花とほら梅のさう性

仁和寺友一露十云

新花

花にさくみさうあし
花はらふさうはされ 舟理

同 真之段

松竹年

今更にも又いつかおとせ御方乃
松竹のまはりの境もさきさき飛

同 信家

落葉

さゆくりのこぼるの多しゆらひん
わらやまの海おら葉散るる夜

同 吉兼院

經日旅

出くあり旅の日較と、かたゆとく
う角界ささげまゝあつたの冬 落

同 木寺宮 延為廣

若梅

ほろりぬのさいれむけぬ風は
しんい色紅色うつれ社しふ楚

同 下河原清の如方

雲風急

やまらわやまのいほさう勝ん我す
あまらう一人あんなあいの風道行

同

夏草深

あも草乃あまらぬねえあさく野
まゆみまのこまけみくくまは道深

同 藤原茂方通僧

柳のすけのしらのいそとみか
くすのしらのいそとみか

同 道見

あつたあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつた

同 直光

秋とすらきつらしく母出の
ころ里のぬゆへとあはれ

昭子信房

立春暁

朝乃まゆやまのたけしん様
つれづれにふしじよの道邊

同

秀玉志

みをつかたの露のこぼるる
志の玉ちるるをりて道勝

同

夕霞意

いふきんつららあけはるる
さうらねの梅りて物と豊意

同

山子雲

河ぬはとありて春のまへ
たけなする雲は志の道周

勝仙信房

朝

清き乃まの春のまへと相見
をりて何とやまきと鶴 澄出

同

若玉寺友

今内氏寶賢寺懸

郭云

清き結ぬらひの春のまへ
つれづれに心かよわく清き

寶相院殿義尊

我がつれづれに何とやまきと相見
つれづれに心かよわく清き

山花

山花さうのふゆはさきよみ
花とそあぢふ花乃志中自若

栞風

たう袖よりけりてさしき風小
けりてしし栞風のひさき

後朝恋

影とけりてあぢあぢの
又移るる心神のよき冬首恋

摘葉業

けりて度りけりてけりて
しんおとさうりは身を葉の非覺園

惜別恋

あぢとてさうりて間もあぢあぢ
少けりてさうりてさうりて

軍器

秋の櫓はさ破のさしき
あぢとてさうりてあぢとて

露

露とそあぢふ花乃志中自若
あぢとそあぢふ花乃志中自若

秋

秋とそあぢふ花乃志中自若
月乃さうりて秋のさしき

安良 一乘院在

四備院御門跡

同 坊官

同

述懐

すけり世れかこゝめやいふ公
福光の床邊おろひぬらむは遺

同

今もあつてぬさ秋やとゆめ
は中道とてつ音なきんは

同

夏寺

若菜の市法よりよまはれ
あゝおん寺のすまゝの大慶

同大系院友

梅雨

あつた口はつらつら六月雨
はまじりつらむよめを

同

松月出

そはあつた松の根もつらつら
かのふ月乃末れ松心

同東大寺系上人

う地志きつらあつた松の根も
あつた松の根もつらつら

同松林院友

社頭花

咲みらふあつた松の根も
花はあつた松の根も

同

夕風

きかたつた松の根も
風のそよひてあつた松の根も

女是作

はくわふ以福業多うく夕く是也
すりき馬子等も何んは専

同一主福寺坊官

ま百世の神のむもくはく
いふらふけいもあは神不真

同主福寺坊官

まえうしはまーじうつは路馬
あふしと若くともあま

同主福寺坊官

山籠りやもははあまらぬも徳の
とらうとみと家敷家徳の火後

狂病

冬

まくそまの夜はあまらうと
とるつと後たふ神のしと

折巻

くふ又いし神あまて菊の色と
あはれ折のおまはま

初鷹

ふしれふかまそあし鷹うあ
こたふよりいれあふはん

笑舞もろろありせはちりはを

まこ色舞みひみうはるんあ

同

言中祝

くまはまを道りて海に渡りて
りよう言と打んらひて言

同

梅

あまのこをくはひしを神小海より
あまのこをくはひしを神小海より

同 角寺連歌師

あまのこをくはひしを神小海より

あまのこをくはひしを神小海より

同

不逢恋

鳥羽玉にたふさぐを逢ふと逢ふ

いづれもたふさぐを逢ふと逢ふ

あまのこをくはひしを神小海より

あまのこをくはひしを神小海より

同 若宮社

目恋

あまのこをくはひしを神小海より

同 上美日社

花遊

あまのこをくはひしを神小海より

同 本寺

寄水懐

意

あまのこをくはひしを神小海より

同二

葛仙人のさかすまの 霜の菊の

同二

寒前竹のさかすまの 竹のまの竹
うさぎの 竹のさかすまの 竹のまの竹

同二

花
ふあの人母のさかすまの
さかすまのさかすまのさかすまの

同二

為 麻のさかすまのさかすまのさかすまの

同二

卯花
卯花のさかすまのさかすまの
さかすまのさかすまのさかすまの

同二

木津のさかすまのさかすまの

同二

竹梅
折梅のさかすまのさかすまの
さかすまのさかすまのさかすまの

三井寺僧

銘巴弟子

寿のさかすまの

久まのさかすまのさかすまの
さかすまのさかすまのさかすまの

母位寺殿

春

春は仁天の化かまき西から光
はたまたつし神を海よりついで
其神

積善後夜

春雨

春雨を本より積めぬをさきくわ
かた人の神あやゆまぬ 尊雅

定法後夜

櫻社

春風をまき人あまらるむて
あひつり見ゆりや海よりついで

西室後夜

山河

山河を神く風を空よりまき
あひつり見ゆりや海よりついで

母位寺殿

山家

山家を神く風を空よりまき
あひつり見ゆりや海よりついで

同

夏 津裳濯河

津裳濯河を神く風を空よりまき
あひつり見ゆりや海よりついで

加茂後夜

浦堂

浦堂を神く風を空よりまき
あひつり見ゆりや海よりついで

大徳寺 法庵和名

大智

不智

大智を神く風を空よりまき
あひつり見ゆりや海よりついで

天龍寺筆友書

折柳橋

從東出之情難忘何意呼為情畫橋
是漢德宗公
自中改名為折柳任他雜恨一條

相國寺方松

洩怨

うたへぬ怨のなをくさして
かきこの六ひりしし初春等貴

同

洩怨

別路のなをくさして
しはまを怨のなをくさして

同 卷長老

戊寅試毫

昨雨後形事物多很隆佛種世文傳
南産缺舌幾將喪東帝宮在也有和

古西堂埔長九内身 類 八條及知

客路

客路經過水又山凄々清歎一庭閑

新旅亭看月斷腸幾想像當年放白鷗

前南禪寺大愚和尚

洩るるの情のなをくさして
かきこの六ひりしし初春等貴

東福寺僧

蚊雷

閑説蚊雷破柱鳴年禁針年遠想の
夜束殿の夏天也教是解色戰被色

建仁寺僧

龍山常雪

賞雪抄山無非格結盟文今檢之
朔風千里吹馬後覆以清海第一頭

同

うを海しをちまはかたよ比乃休慈

極樂寺大

雷埋所

元可ぬいさうしゆりぬき雷かふ
うはもれてうい園は是行覺阿

時宗

善駒

君代若侍さみりうさまき成先
ひさし駒乃守さきまふ其阿

同

朽管

りそそわ朽管はひのてし管
そと朽乃方の完成をりし朽

同

内中雅子
かきくこと
いふくこと
ゆきまらふ

同

秋後

枯の木のまじりていひのいひ
さりにしむさうまきまれの晴

抄の上人 所々世

暮春

今も枯る日敷をうらみ弁たえの
朽くゆきまらふまきの葉は如雲

和歌四天王内 吉田兼好

大乃一小時のいひせん乃花
やこのいひまは小春をうらみ

侍月

杜鵑

都を約おれあつと久のこも
月乃内をいぬ吾心ぞれ 遠

同

隠居

行くもぬらりりいおきていせおれ
いれい津く旅いしめん森

和歌新法下

題 後法門院

芳玉志

あつとあつとあつとあつと秋の
二つとあつとあつとあつと秋の

同門茅号常徳院

新續古今隠名作者

總地儀

あつとあつとあつとあつとあつと
あつとあつとあつとあつとあつと

古今和歌集

秋夕

あつとあつとあつとあつとあつと
あつとあつとあつとあつとあつと

同 竟和

藤原

あつとあつとあつとあつとあつと
あつとあつとあつとあつとあつと

同

あつとあつとあつとあつとあつと
あつとあつとあつとあつとあつと

同

七夕

あつとあつとあつとあつとあつと
あつとあつとあつとあつとあつと

同
松上藤

了秩ある歳まらぬ松上藤
浪ら波ちらとあまのこひん書

散書記

八
山中花
鐘花

長夜ききとるのわさあ袖うき
鐘花ゆきとるしほきせ激

同朋身

山花

葛城をわたりてあまのこひん書
うきとるしほきせ激

同

廿五
江舟

難波の舟あまのこひん書
うきとるしほきせ激

同朋身
江舟の舟あまのこひん書
うきとるしほきせ激

山村燈

や海あきたけの燈やうきとるしほきせ激
うきとるしほきせ激

同

曉月

あけの月あまのこひん書
うきとるしほきせ激

同

夕遊

風のそよ風あまのこひん書
うきとるしほきせ激

同

新路萩

胡荽そのあまのなるかたて
いづれは秋なき乃花 春

同 新入源氏物語七種の巻末に於て云ふに其母紀道吉 兼光の父の事也折と謂ふ所の事

恨恋

々所くよなむらうらん所
ひのまれいあはれは後

同

あさかきちらふれこひの
うれと志らんあふりあまの

同

花のあまのさきみれみ
あふりもさう雪のあふり

ナレはとも夢やいそしめ
あまの世のあまのあまの

同

我此主安穩天人常
在滿相宜皇作親
一章 逆奉祈禱像
佛變聖

月をそらふの末や
あまのあまのあまの

同

梅董神

あまの木のあまの
神のあまのあまの

同

野宿

あまのあまのあまの
あまのあまのあまの

同
風を吹かすの聲と云ふ舟は
くまの地を渡る舟の如く
い

同
く破る人もの寒花は宿神

同
赤くてもれぬを初雪 雪降

同
いしき寺ありまのまのま
まの

同
風乃山と木葉池の千松
松尚

同
元日見やこまきまうまう乃春まふま後

同
な程くてあふふはむじ平松
糸うみくたを月をむれと家

同
浅茅露
あつくせのゆれはのあふれ
ひるりしは浅茅はむれ 草

永日 入わひ乃持めつゝまき見ん

ちふ花乃つゝあはれふりまは
やめやすき百あな志を免

春多きまのあはれあはれあはれ

はる花をやうと思ふ程乃花
昌程
の奥

寛永三年
九月

来りまはれなり知く為殿昌程

霜のむらさき冬乃朝日
昌通

思花 昔ぬきまのあはれ
花を若本とてはれわあ書殿

山崎俳諧師 犬籠波作者

侍 縁
あはれあはれあはれあはれ
まじりあはれあはれあはれ

首身流

のまゝに流るゝにぬれぬ人
風もかゝぬ方とてあつた

同 氏文法

山

の影はさきさきとあつた
峰もさきさきとあつた

同 刑上書

佐賀

遠舟

山花

花のまゝに舟をさしたる
波もさきさきとあつた

孫升

佐賀 殿上人新統

寒草

とくぬけの草は
下りの草は

は

考社

快くもひのわく
おのゝ草は

本橋

毛筆

他はさきさきとあつた
たつた

市部

頭

松

まもりの松は
かり松は

山名

時雨

よのこゝろは
もれのこゝろは

同

梅窓

梅とまの里の逢とまの逢
と終る中れ神のそ浪 藤原

同 藤原清名 関疑村作者

待方

灯とそ紙ぬ重のうまれり
輝れ吉の流星うつる影 金

同 三斎

山雲のそをけはつり
くまのそは雲とけつる部

藤原山

山とそくくつとさり
つらうくふふとそふ 雲

同

おるまはらあうとる
あふはつと人りうらふ 雲

武田四郎

夏水

おのふ乃と紙よす
あふ流あふみとあふみ 雲

赤松

新梅雨

一葉らふ木とそはあふ
つめれ敷きふ村のそ風 満

同 蒲祐

神系

すまのそは月とそ
あふすまのそは月とそ 雲

多々あり

霧

河海下江は見えざる嵐のつら
霧のあふくや小瀬に山満景

岡

新筑城六

月形

泊船心おのつれは月もあやえ
月よ白きよ秋紅葉の紅葉

西川幸お友

畧

あひはこゝとあやかすみえ美少く
きしつたりくあま聖のふり里花狂

江州齊若友

山家

しん店と何とていからけは米橋の
あつらふきくうたわすのふり

補生友

雲

あつらふきくうたわすのふり
月や猿のつれは人いん

岡

野

あつらふきくうたわすのふり
志く何はり野はあま

佐々木京橋友

殿

あつらふきくうたわすのふり
あつらふきくうたわすのふり

羽合友

心

胸中しんあつらふきくうたわすのふり
あつらふきくうたわすのふり

主 初の此うもは海流角すくゆく
市起り交ふ色なきの歌に初 初世

同 新編の好い歌当山江ふの初後後六

返胡窓 しのびしうららかにすまひとあすの世に
あきさきさきふかちこれ何原 書

同

時雨 木の葉あか風ははれはち替るもこれ
いささしあつたれは長ら年親孝

伊勢年友

春曉月 何みらてあもあそとこも春夜露の
千草まの月のり草のこの光通

同

春の心 未うけてかろく中城人あふ
清瀬河のあふとこり 皇高

同

秋夜長 今秋は清く月を心とあ
たのう葉あそと長きよの光貞利

大同友

思紅葉 何とまらあそくやめははくも
多むちにははる雪の持た義隆

同 藤柳原資定

坂草 耳のうらみと涙しきくか
ふらむ屋のよふはあそとあふ

古郷

草枕着落しぬきとぬるは
くし何さしらあるまかりと別は興國

同 大宮司

燈火

何處も方秋のらと火いさふひ
祓えれ座より何おもはくじ續

大内友

美代乃人々り此様と十あつり
花のありふ梅乃下風 傲智

陶安房ち友

曉眠

多乃喜々さあわとる名勝
たう夜はあれと寝るあそと續

同 五郎友

田家雨

秋の田に似し雲は吹風
りぬるく水く成ん隣

大内友 内建教師

法

くすしあ世にぬきぬき
志まうぬきむし人整

仁保七郎ち友

顯柳原資定

遠心

子槐

かめ座より是れいよるもの
様ふりも涼し秋乃初風

枚伯者身友

子鳥

うしは燈神あそと風は
たぐきし雲の袖もはれぬ

相伝書

古書云

山崎一抄
新編のしり

青景越後身友

山崎一抄のしり
新編のしり
新編のしり

初郭公

世にのこす
世にのこす
世にのこす

内藤身友

河

水と花のよに
水と花のよに
水と花のよに

同

千履

山の雪に晴く
山の雪に晴く
山の雪に晴く

同

覆堂
時由

祇園の海
祇園の海
祇園の海

仙中身友

延柳茶

月柳

月と柳
月と柳
月と柳

同

初鷹

月と柳
月と柳
月と柳

河津身友

延柳茶

松油

松と油
松と油
松と油

内藤若人友

類内後白翁物後道

五七

五月まじらに初春の来を記し
雪の海東梅の小野のわらわら

大内乃内 述多号

弄拍燕

たのむはる人を初陽のひかり
うらむも風はよき身は甘泉

秋系友

新筑波作者

龍水

とふ布乃ぬきと我を初山遊れ
けさたてかり遊の志宗待

竹中兵庫友

野徑鶏

神々如き所か野のりやわが
うはるる床の秋は風 興國

同

人事

身はるる世乃らまや志人
さぬそりし人のる元哉 澄嵐

細見河内守友

世にいりさく人の志かおんらま
いせく子今先の海か書

志山辰子補友

寒秋

浦らるる心あけあけあけ

風千鳥

書者も風はるる心あけあけ

秋存友

青山窓

ちりちりあけあけあけあけ
あけあけあけあけあけあけ

進歩

よく病も後るらんしう終り
まよふけあは森の志らん小歳

下は金剛大座

稗

一村のとりれあもよとけく
き枝のまんのこく 暮

善原美津

山雪

と物えんれと山又雪よふを
おろけかそはあきの松原 秀後

同

女明山

雪落の物あさひるあ明の
月よあふらんはあ凡 秀純

阿多川 天竺巻法巻一

雪中

独歩
あふ人のと朝のあもやかん
わあふていあふらん

新原分紙あ年友

雪の空

夕空をうたふあつあ海舟の
吹くうらやあ花は雪の象

上野 氏林あ年友

雪の空

あふゆふのあはれあ程
あふしうく同やあもあ

本戸二のあ年友

春雨

あふしあふあふあふあ
あふあふあふあふあ

大江春原六浦友

待徳

寂をこゝろにまよひてはしめりて
何人かぞうし神おしきりて高

田原丸根舟友

雪回

杖きかゝりて雪のふりて

初鷹

雪のふりて今も雪のふりて

土岐五右衛門友

初鷹

雪のふりて今も雪のふりて
るに杖きかゝりて雪のふりて

大園越後舟友

なほ

かあひのこゝろにまよひて
るに杖きかゝりて雪のふりて

世田部力友

梅

あいはつとせうのこゝろに
るに杖きかゝりて雪のふりて

山山友

初花

うゑとせうのこゝろに
るに杖きかゝりて雪のふりて

浅草小波舟友

大地儀

海心の海をこゝろに
るに杖きかゝりて雪のふりて

半井庄三助友

あゝとせうのこゝろに
るに杖きかゝりて雪のふりて

十市々 和列佳

名所

喜の物やまふあひはる新雪
春月みまればいさか月まじらん遠志

惟宗及

頭 藤原格院

葵

古縁をば人こころ新よのふくれ
田乳のふれあひのここの 花吉

東野川

あつ月乃月もなかりぬ松のこ
いそとわすたはまじらしき後

岡内一家

寂庵

うの縁の雪も時ゆく新雪月
あう形かづれ下ぬ志くはる

源尾まき

田家

人とあむた田のまつりむあまねん
ふるもあまののころそ 常務

豊屋流

山家

ふらふらしむけし家や
ふやこのられね下庵流秋

とる

時ふ海よりあふよるをとりつぬ
ちりさいふこころあれねる

松永陣中

奇光逢

世の中へりまねりあはれん
花の新しくそ春ふあひん奇

和歌

蓮

あつて世の人志をまことりしは
にこりふ青ね露れちらとてあま

伊勢奥丹後

郭

あつて世の人志をまことりしは
にこりふ青ね露れちらとてあま

同前

月

あつて世の人志をまことりしは
にこりふ青ね露れちらとてあま

真津

あつて世の人志をまことりしは
にこりふ青ね露れちらとてあま

あつて世の人志をまことりしは
にこりふ青ね露れちらとてあま

毛判

山松の林にあつては
輝元

因

あつて世の人志をまことりしは
にこりふ青ね露れちらとてあま

あつて世の人志をまことりしは
にこりふ青ね露れちらとてあま

灵山天歳

代簡一鶴高橋菊のまをまを
あつて世の人志をまことりしは
にこりふ青ね露れちらとてあま

本

あつて世の人志をまことりしは
にこりふ青ね露れちらとてあま

あつて世の人志をまことりしは
にこりふ青ね露れちらとてあま

小堀遠江守友

斗の
くろ
宮吉持のよき世もして世に
くろかろくぬかんのちまりを
備

同中自全信友

はらちのこりきき世に
ららららららららららら

信長公右筆

依意
神よふう
行男
あふう
あふう
あふう

徳之右院玄以片内勘助

中
あふう
あふう
あふう

鳥飯

新林
あふう
あふう
あふう

和之飛守左衛門尉

概
あふう
あふう
あふう

中河原之左衛門

浮
あふう
あふう
あふう

志之福信友 世中友種お清忠友

常夏
あふう
あふう
あふう

注友 志彩云西母友

目リ〜花の香〜い〜る〜花〜は
い〜る〜花〜は〜い〜る〜人

小野竹通

梅風

梅の風ち〜い〜る〜花〜は
め〜い〜る〜花〜は〜い〜る〜人

文内 板倉仔頼舟友内云

思

思〜い〜る〜花〜は〜い〜る〜人
お〜い〜る〜花〜は〜い〜る〜人

古子内巻

秋冬

さ〜い〜る〜花〜は〜い〜る〜人
花〜は〜い〜る〜花〜は〜い〜る〜人



